

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「指標等を活用した地域の実情に応じた肝炎対策均てん化の促進に資する研究」
分担研究報告書

拠点病院事業指標、普及啓発事業指標の作成と評価、指標運用方法の検討

研究分担者：竹内 泰江

所属：国立国際医療研究センター肝炎情報センター 上級研究員

研究要旨：2016 年に見直された肝炎対策基本指針では、肝炎ウイルス検査の受検、肝炎ウイルス陽性者の受診・受療、専門医療機関・肝炎診療連携拠点病院等（以下、拠点病院）による適切かつ良質な肝炎医療の提供というスキームの中で、肝硬変又は肝がんへの移行者を減らすことが目標と設定されている。しかし上記スキームの実施現状調査によると、拠点病院において均てん化された肝炎医療が提供されている一方で、拠点病院事業指標では啓発事業の進展について地域差が存在することや事業担当者が効果を感じにくい等の課題がある。

（目的）肝疾患診療連携拠点病院は地域肝炎医療ネットワークの中心であり、肝炎医療の提供のみならず、啓発活動、相談支援活動など拠点病院事業を展開している。本分担研究では、先行研究班（指標班、拡充班）で作成した拠点病院事業指標を継続運用する。指標調査を解析し、その妥当性、有用性、継続可能性を検証し、総合的な肝炎政策の推進に向けた具体的な取組の提言を行うとともに、取組評価が困難である啓発事業についてのアウトカム指標導入について検討を行う。

（方法・結果）令和6年度に拠点病院事業（21 指標）を継続調査・評価した。普及啓発事業指標について起案を行い、調査・解析を行った。拠点病院においては、各指標の経年推移より拠点病院事業における COVID-19 感染が及ぼす影響を評価することが可能であった。ほとんどの重要項目についてはプレコロナ・ウィズコロナ期で変わらず概ね高い指標値で推移していた。就労支援事業に関しては感染症の影響をほぼ受けずに経年的に指標値上昇を認めた。啓発事業の評価として、一部項目を見直して①情報発信方法の評価、②受け手の理解度の評価を行った。前者において、情報発信ツールであるホームページについて、情報更新が為されていない施設は昨年度とほぼ同数認めた。を行った。後者では前年度調査では地域差を認めていたが、本年度調査において年度差も認めた。経年的に調査を行っている本研究班作成啓発資材における知識定着度は経年的に上昇傾向となっており、肝炎に係る正しい知識の普及の底上げの一助となっている可能性が示唆された。

（考察）拠点病院事業指標（21 指標）の経時的な調査・解析した。各事業別に効果的に運用する方法の提案が必要である。重要項目については概ね高い指標値が得られているものの、引き続き、拠点病院事業および啓発事業の実施方法についての検討と運用について解析を行う必要がある。

A. 研究目的

2016 年 2022 年と、肝炎対策基本指針の見直しが行われた。同指針では、肝炎ウイルス検査の受検、肝炎ウイルス陽性者の受診・受

療、専門医療機関・肝炎診療連携拠点病院等（以下、拠点病院）による適切かつ良質な肝炎医療の提供というスキームの中で、肝硬変又は肝がんへの移行者を減らすことが目

標と設定されている。しかし上記スキームの実施現状調査によると、①肝炎ウイルス検査及び肝炎医療の均てん化が重要であるものの依然として各地域の取組状況に差があること、②肝炎検査や肝炎医療を適切に受けられるよう、効果的な広報や正しい知識の普及が必要であること等が挙げられており、これらの課題の解決に向けて積極的な取組が求められている。

先行研究班（肝炎等克服政策研究事業指定研究「肝炎病態指標の開発と肝炎政策への応用に関する研究（指標班）」（平成29年度～令和元年度）「肝炎総合政策の拡充への新たなアプローチに関する研究（拡充班）」（令和2年度～令和4年度））において、肝炎医療指標、自治体事業指標、診療連携指標、拠点病院事業指標を作成し運用している。拠点病院や専門医療機関においては均てん化された肝炎医療が提供されている一方で、拠点病院事業指標では啓発事業の進展について地域差や施設間格差が存在することが示唆されていることや、情報発信が一方的となり、啓発対象者への浸透度や定着度が判然としない課題がある。

本分担研究では、先行研究班で作成した肝疾患診療連携拠点病院事業指標の継続した運用と検討を行う。さらに、昨年度起案した啓発事業に係る指標の経時的な評価、運用を行う。これらの調査結果から指標の妥当性、有用性を検証し、総合的な肝炎政策の推進に向けた具体的な取り組みの提言を行う。

B. 研究方法

・拠点病院事業指標

先行研究班（指標班）で作成した拠点病院事業指標（21指標）を調査・評価した。令和5年度に拠点病院（全72施設）を対象に肝炎情報センターが実施する令和5年度拠点病院現状調査と併せて、令和5年度実績について令和6年6月～7月に調査した。（拠点病院事業指標一覧）

拠点病院事業指標一覧（21指標）

・相談支援（拠点1-4）			
（項目）	（分子）	（分母）	
重要 拠点-1 肝疾患相談支援センターHP開設	有り=1, なし=0	定数=1	
重要 拠点-2 肝疾患相談支援センターの設置	有り=1, なし=0	定数=1	
重要 拠点-3 相談件数（総数）	相談件数	定数=1	
重要 拠点-4 相談支援に係る自治体との連携	有り=1, なし=0	定数=1	
・患者、家族向け講座（拠点5,6）			
標準 拠点-5 肝臓病教室の実施回数	実施回数	定数=1	
標準 拠点-6 家族支援講座の実施回数	実施回数	定数=1	
・就労支援（拠点7）			
参考 拠点-7 就労支援事業実施	有り=1, なし=0	定数=1	
・研修事業（医療従事者向け）（拠点8-14）			
重要 拠点-8 連絡協議会実施回数	実施回数	定数=1	
重要 拠点-9 肝炎専門医療従事者研修会実施	実施回数	定数=1	
重要 拠点-10 肝炎専門医療従事者研修会の内容評価	参加者数	実施回数	
標準 拠点-11 肝炎専門医療従事者研修会開催時の自治体等との連携	有り=1, なし=0	定数=1	
重要 拠点-12 一般医療従事者研修会実施	実施回数	定数=1	
重要 拠点-13 一般医療従事者研修会の内容評価	参加者数	実施回数	
標準 拠点-14 一般医療従事者研修会開催時の自治体等との連携	有り=1, なし=0	定数=1	
・市民公開講座（拠点15,16）			
重要 拠点-15 市民公開講座実施	実施回数	定数=1	
重要 拠点-16 市民公開講座の内容評価	参加人数	郵道府県人口 (100万対)	
・その他（拠点17-21）			
参考 拠点-17 地域診療連携バス運用	地域診療連携バス 運行回数	定数=1	
標準 拠点-18 肝炎情報C実施の拠点病院連絡協議会参加	参加回数	年間実施回数	
標準 拠点-19 肝炎情報C実施の責任者向け研修会参加	参加回数	年間実施回数	
標準 拠点-20 肝炎情報C実施の看護師・相談員研修会参加	参加回数	年間実施回数	
重要 拠点-21 複数の拠点病院がある場合の連携有無	有り=1, なし=0	定数=1	

・啓発事業指標

啓発事業の評価として、①情報発信方法の評価、②受け手の理解度の実地を行った。①について全国72施設の拠点病院において、拠点病院及び肝疾患相談・支援センターのHPが設置され、様々な情報発信が為されており、以下の掲載項目について令和7年1月に調査した。前年度調査時にリンク更新がなされていない項目があることが判明していたため、新規にHP-11として「コンテンツのリンク切れ項目の有無」を追加した。

指標項目案（情報発信方法の評価）

（項目）			
（分子）	（分母）		
HP-1 肝疾患相談センターの説明	有り=1, なし=0	定数=1	
HP-2 国の助成制度の説明	有り=1, なし=0	定数=1	
HP-3 自都道府県の肝疾患専門医療機関掲載	有り=1, なし=0	定数=1	
HP-4 肝疾患説明	有り=1, なし=0	定数=1	
HP-5 就労支援に係る案内	有り=1, なし=0	定数=1	
HP-6 肝炎訴訟に係る案内	有り=1, なし=0	定数=1	
HP-7 患者会に係る案内	有り=1, なし=0	定数=1	
HP-8 市民公開講座の内容について公開	オンデマンド配信有り=3、 配布資料掲載有=2、 Agendaのみ=1、なし=0	定数=1	
HP-9 医療従事者講習会の内容について公開	オンデマンド配信有り=3、 配布資料掲載有=2、 Agendaのみ=1、なし=0	定数=1	
HP-10 ホームページのアクセス解析の実施	有り=1, なし=0	定数=1	
HP-11 コンテンツのリンク切れ項目の有無	有り=1, なし=0	定数=1	

②について以下の項目を、令和4年度実績については肝炎医療指標調査と同時期に実施していたが、令和5年度実績については

拠点病院事業指標調査と合わせ、令和 6 年 6-7 月に調査した。

	(項目)	(分子)	(分母)
啓発-1	市民公開講座終了時のアンケート実施の有無	有り=2, オンラインではなし=1, 実施なし=0	定数=1
啓発-2	市民公開講座終了時のアンケート回収状況(現地)	回答数	現地参加人数
啓発-3	市民公開講座終了時のアンケート回収状況(オンライン)	回答数	オンライン参加人数
研修-1	医療従事者講習会終了時のアンケート実施の有無	有り=2, オンラインではなし=1, 実施なし=0	定数=1
研修-2	医療従事者講習会終了時のアンケート回収状況(現地)	回答数	現地参加人数
研修-3	医療従事者講習会終了時のアンケート回収状況(オンライン)	回答数	オンライン参加人数
その他	今後のアンケートの可否について(※)		

(倫理面への配慮) 本分担研究は、事業調査によって収集されたデータに基づく解析研究であり、個人情報を取り扱うことはない。したがって、厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成 26 年 12 月 22 日)を遵守すべき研究には該当しない。

C. 研究結果

拠点病院事業指標の策定と検討、評価

拠点病院を対象とした本調査における回収率は 100% (72 施設) であった。ブロック別および全国の平均調査値を以下に示す。

- ・相談支援 (拠点 1-4)

	拠点1	拠点2	拠点3	拠点4	平均	標準偏差	最大値
指標-1	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.00	1.00
指標-2	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.00	1.00
指標-3	148.00	144.76	269.27	37.80	366.36	65.25	171.91
指標-4	0.60	0.65	0.64	0.67	1.00	1.00	0.76

- ・患者、家族向け講座 (拠点 5-6)

	拠点5	拠点6	平均	標準偏差	最大値
指標-5	2.30	2.35	3.36	1.60	3.36
指標-6	0.40	1.00	0.45	0.27	1.09

- ・就労支援 (拠点 7)

	拠点7	平均	標準偏差	最大値
指標-7	0.50	0.35	0.45	0.13
指標-8	0.55	0.50	0.50	0.41

- ・研修事業 (医療従事者向け) (拠点 8-14)

	拠点8	拠点9	拠点10	拠点11	拠点12	拠点13	拠点14
指標-8	0.30	0.71	0.64	0.67	1.18	1.13	0.77
指標-9	1.70	1.53	0.73	2.93	1.45	2.13	1.74
指標-10	50.95	39.26	19.39	62.30	47.68	35.90	42.58
指標-11	0.70	0.41	0.45	0.40	0.55	0.50	0.50
指標-12	1.20	1.06	1.55	1.73	2.00	1.13	1.44
指標-13	48.55	40.40	148.82	52.49	27.61	64.94	63.80
指標-14	0.30	0.24	0.36	0.40	0.27	0.75	0.39

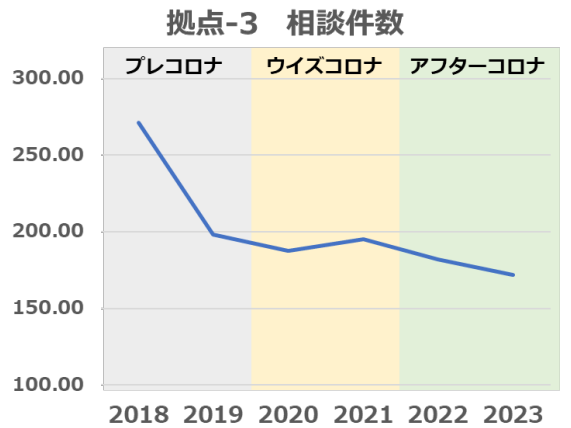
- ・市民公開講座 (拠点 15-16)

	拠点15	拠点16	平均	標準偏差	最大値
指標-15	0.70	0.94	1.18	0.87	1.18
指標-16	89.95	44.20	41.02	43.93	226.20

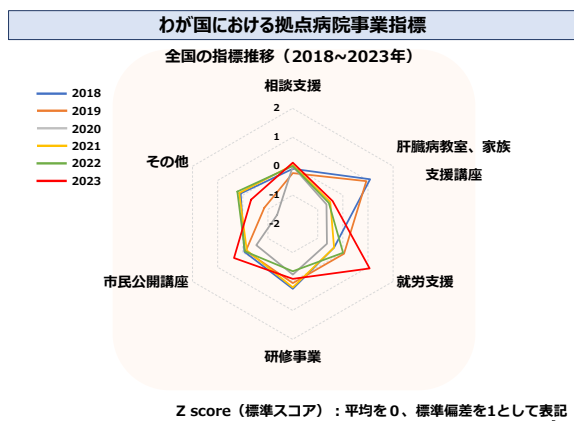
- ・その他 (拠点 17-21)

	拠点17	拠点18	拠点19	拠点20	拠点21	平均	標準偏差
指標-17	0.00	116.76	0.09	0.20	1.09	0.00	19.69
指標-18	1.00	1.00	0.95	1.00	1.00	1.00	0.99
指標-19	1.00	1.00	0.95	1.00	1.00	1.00	0.99
指標-20	0.60	0.53	0.91	0.53	0.91	0.88	0.73
指標-21	1.00	1.00	0.88	1.00			0.97

拠点病院事業指標 (21 指標) においては調査実施が困難な指標項目を認めなかった。2018-2019 年はプレコロナ、2020-2021 年はウィズコロナ、以降がアフターコロナとなるが、各項目を確認すると概ね重要項目についてはコロナ感染状況に関与なく高い指標値で推移していた。しかし、重要指標に位置付けられている肝疾患相談支援センターの相談件数 (拠点-3) は減少傾向にあった。

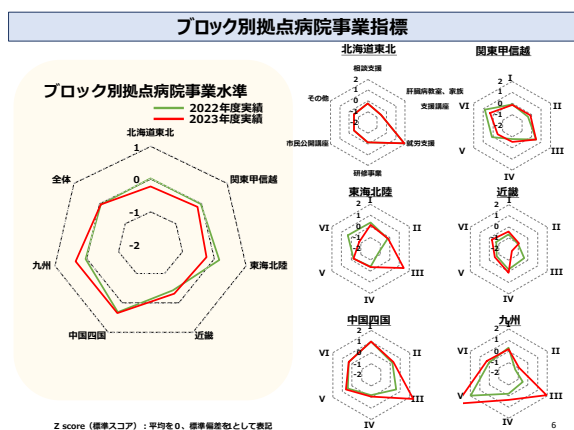


拠点病院事業調査において相談内容の上位に該当するのは「病気自体に関して」「病気の治療に関して」「医療費助成制度に関して」であるが、これらに関しては各拠点病院のホームページや市民公開講座や肝臓病教室、リーフレットといった資材等で情報発信が為されている傾向が高い。これらの情報発信により、相談支援センターを訪問する機会の減少、相談件数の減少に繋がる可能性がある。したがって、指標値の低下が拠点病院事業の活動状況を反映するものでないと考えられる。実際に、肝臓病教室や家族支援講座についてはコロナ前は外に凸、コロナ禍を契機に指標値の低下を認めているも、改善の兆しがある。

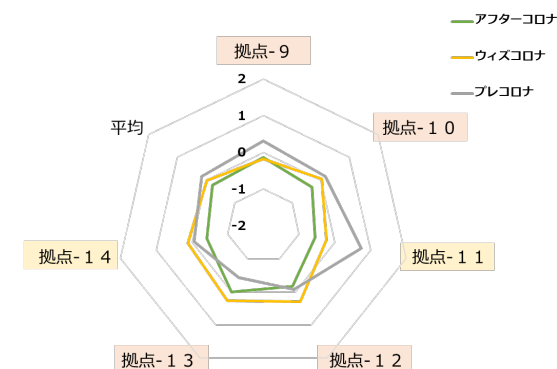


拠点病院事業指標において、就労支援については年々指標値の上昇を認めており、今回の調査においてもっとも指標値が伸びている結果だった。

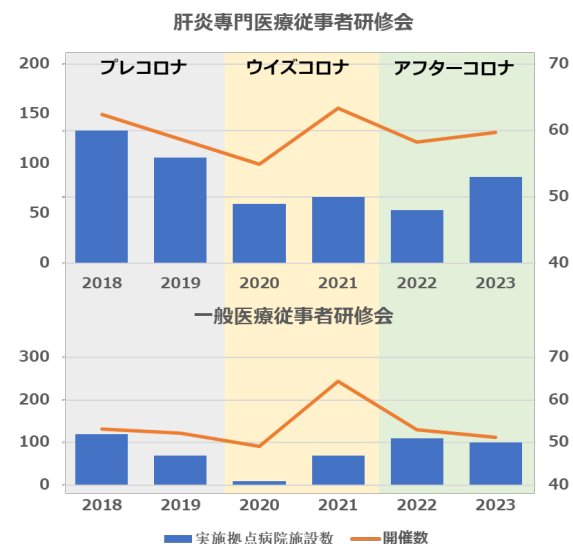
一方、ブロック別の拠点病院事業指標は例年のように全体の形は地域ごとの特性を表す結果であった。就労支援について近畿をのぞいて指標値の増加があった。



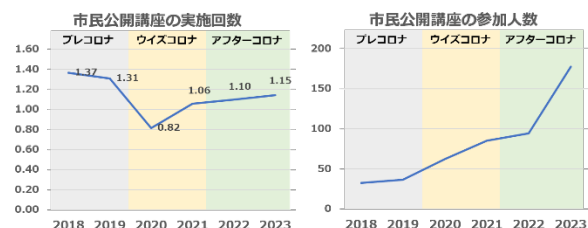
プレコロナ期と比較して、アフターコロナ期に低下した指標としては肝臓病教室/家族支援講座と研修事業であるが、前者についてはウィズコロナ期よりも指標の改善が得られている。また、各施設の詳細報告を確認すると実施回数は少なくとも、オンデマンド開催/紙面開催等の開催工夫が行われ、情報発信機会は保たれている可能性がある。一方で研修事業については緩徐に指標値の低下を認め、その内訳は以下の通りである。



肝炎専門医療従事者研修会について実施している拠点病院の施設数がプレコロナ期に戻っていない結果であったが、一般医療従事者研修会については概ねプレコロナ期と同等の実績であった。

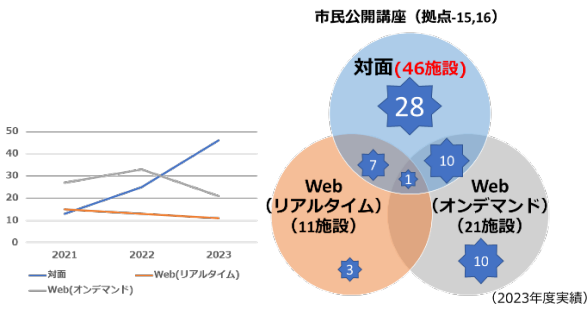


市民公開講座に係る指標は調査期間において横這い～微増していた。先に述べた研修事業等と同様に、ウィズコロナ期に実施回数については低下したものの、それを上回る形で一回あたりの参加人数に関する指標が経時的に上昇している結果であった。



開催形式は、ウィズコロナ期は感染症対策の観点から WEB 開催を行う施設が増え、開

催様式が多様化した。2022 年度と 2023 年度で比較すると、対面開催をする施設が非常に増加していた。Web 開催はリアルタイム・オンデマンドともに減少傾向にあるが、ハイブリッド開催（現地＋web）はほぼ横ばいであった。



市民公開講座において、実施回数はプレコロナ期よりも減少し、Web 開催から対面開催施設が増えたが、都道府県人口あたりの参加人数は経年的に増加している。このように、コロナ期を経て、多様な取組が行えるようになったものの、活動の効果について拠点病院自身が感じにくい側面があることが課題である。

啓発事業指標の策定と検討

—情報発信方法の評価—

すべての拠点病院において肝疾患相談支援センターのホームページを認め、調査対象施設は 72 施設である。前年度から HP を改訂した施設は 15/72 施設であった。ブロック別、および全国の平均調査値は HP-1～HP-7 において前年度と変化のない結果であった。

	北海道東北	関東信越	東海北陸	近畿	中国四国	九州	全体
HP-1	1.00	0.94	1.00	0.93	1.00	1.00	0.97
HP-2	0.80	0.59	0.55	0.67	1.00	0.63	0.69
HP-3	0.80	0.71	0.73	0.53	0.91	0.75	0.72
HP-4	0.70	0.53	0.73	0.40	0.82	0.63	0.61
HP-5	0.20	0.24	0.18	0.00	0.27	0.25	0.18
HP-6	0.00	0.18	0.18	0.27	0.18	0.25	0.18
HP-7	0.00	0.29	0.00	0.07	0.18	0.00	0.11
HP-8	1.70	1.29	2.00	0.80	1.91	1.25	1.44
HP-9	2.10	1.35	1.64	1.20	2.09	1.50	1.60
HP-11	0.5	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3

就労支援・肝炎訴訟・患者会に係る案内が掲載されていない施設を多く認めた。

(HP-5 : 0.19、HP-6 : 0.18、HP-7 : 0.13)

令和 7 年 1 月の調査時点で調査項目につ

いてホームページに掲載はあるものの、リンク切れでアクセス不能となっている項目及び旧サイトのリンク掲載のままである施設を 30% (20/72 施設) で認めた。その約 9 割は各都道府県における自治体の作成する肝疾患助成制度や専門医療機関一覧の掲載ページであった。専門医療機関リストが PDF で掲載されている場合など登録内容の変更と共に URL が変更となるケースも考え得るため、情報のアップデートについて定期的に実施する必要がある。なお、HP のリンク確認及び修正依頼については令和 7 年 1 月 24 日の第 2 回肝疾患診療連携拠点病院間連絡協議会で実施した。引き続きの喚起実施する予定である。

—受け手の理解度の評価—

拠点病院を対象とした本調査における回収率は 90% (65/72 施設) であった。ブロック別、および全国の平均調査値を以下に示す。赤字は前年度より指標値が低下していた項目である。

	北海道東北	関東信越	東海北陸	近畿	中国四国	九州	全体
啓発-1	1.71	0.86	0.75	1.30	1.09	0.88	1.07
啓発-2	0.63	0.78	0.53	0.84	0.57	0.76	0.72
啓発-3	0.18	0.00	0.00	0.53	0.35	0.13	0.06
研修-1	1.00	1.00	0.86	0.62	1.09	1.14	0.94
研修-2	0.36	0.48	0.21	0.01	0.40	0.06	0.19
研修-3	0.50	0.33	0.33	0.32	0.00	0.54	0.38

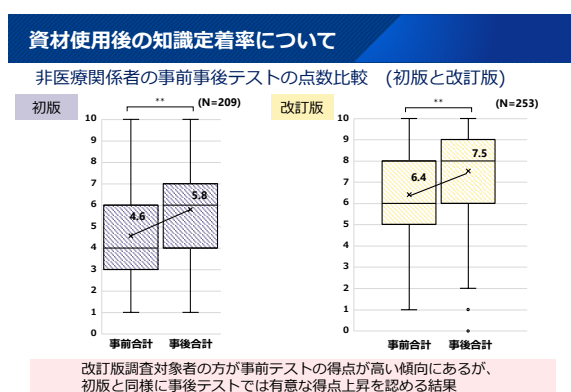
地域によって市民公開講座および医療従事者講習会におけるアンケート実施状況に差を認めた。(啓発-1、研修-1) 市民公開講座において、現地参加者に対してはアンケート実施が紙媒体で行えるため、指標値は高いものの、オンライン参加者(リアルタイム、オンデマンド)に対しては視聴後のアンケートサイトの誘導をしても、対応をスキップ、回答フォームの存在に気付かない可能性がある。(啓発-2、啓発-3) 医療従事者講習会については、R4 年度におけるアンケート実施は市民公開講座に比較して全体的に高い指標値となっていた。アンケート回答が受講確認となっているケースが多いものと考察していたが、R5 年度調査では現地・オンラインいずれも低い実施状況で

あった。(研修－２、研修－３)

一啓発資材(肝炎すごろく)の効果検証―

西井分担研究員の開発した肝炎啓発エデュテインメント資材「肝炎すごろく」を使用した効果検証について継続調査を実施した。全拠点病院の啓発担当者、および肝炎情報センターのホームページで問い合わせいただいた方へ、資材を送付し、事前事後テストを実施した。

改訂版の利用者は2026年3月末時点で535名にのぼり、うち非医療従事者は287名であった。医療従事者と比較すると、非医療従事者は元々の肝炎に関する知識が少ないと考えられるが、初版と同様に資材使用後には有意差をもって得点上昇していることが明らかとなった(下図)。



初版においてはウイルス性肝炎の感染経路に係る設問の正答率が最も向上していたが、改訂版においてはワクチンの定期接種開始時期に係る設問、肝炎がんの可能性のある肝疾患についての設問の正答率が向上していた(51.2%→87.5%、63.8%→87.8%)。一方、感染経路に係る設問については正答率の向上は初版と比較して低下しているものの、事前テストの段階で67.2%、事後テストで83.3%の正答率が得られており、正しい知識の普及が為されてきているものと考えられた。本調査は2022年より実施しているが、経年的に事前テストの得点率が上がっている傾向にあり、正しい知識の普及の底上げの一助となっている可能性がある。

D. 考察

拠点病院においては、各指標の経年推移より拠点病院事業におけるCOVID-19感染が及ぼす影響を評価することが可能であった。ほとんどの重要項目についてはプレコロナ・ウィズコロナ期で変わらず概ね高い指標値で推移していた。就労支援事業に関しては感染症の影響をほぼ受けずに経年的に指標値上昇を認めた。啓発活動、研修事業に関し、ウィズコロナ期を経たことにより開催方法の工夫が為され、より多くの参加者を集めることができるようになった。

情報発信ツールであるホームページについて、情報更新が為されていない施設は昨年度とほぼ同数認め、各拠点病院へ喚起を行った。理解度の評価としてアンケート調査実施有無については前年度調査では地域差を認めていたが、本年度調査において年度差も認めた。担当者により対応が異なる可能性が示唆された。経年的に調査を行っている本研究班作成啓発資材における知識定着度は経年的に上昇傾向となっており、肝炎に係る正しい知識の普及の底上げの一助となっている可能性が示唆された。

E. 結論

拠点病院事業指標(21指標)の経時的な調査・解析した。各事業主体別に効果的に運用する方法を提案する必要がある。啓発事業指標について項目の見直しを行った。引き続き、拠点病院事業および啓発事業の実施方法についての検討と運用について解析を行う必要があると考えられた。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

国立国際医療研究センター肝炎情報センター上級研究員として、厚生労働省肝炎対

策推進室、全国肝疾患診療連携拠点病院と連携し、肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。

G. 研究発表

1. 発表論文

Takeuchi Y, Nozawa A, Kanto T.
Integrated policy of medical expense subsidies and clinical registry for patients with liver cancer and decompensated cirrhosis in Japan.
Hepatology Research. 2024 Aug; 54(8): 745-752.

2. 学会発表

竹内泰江、藤森晶子、西井正造、考藤達哉
ゲーミフィケーションによる肝炎医療の均てん
化に向けた新たな普及啓発の実践について
第60回日本肝臓学会総会 6月2024年 熊本

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし